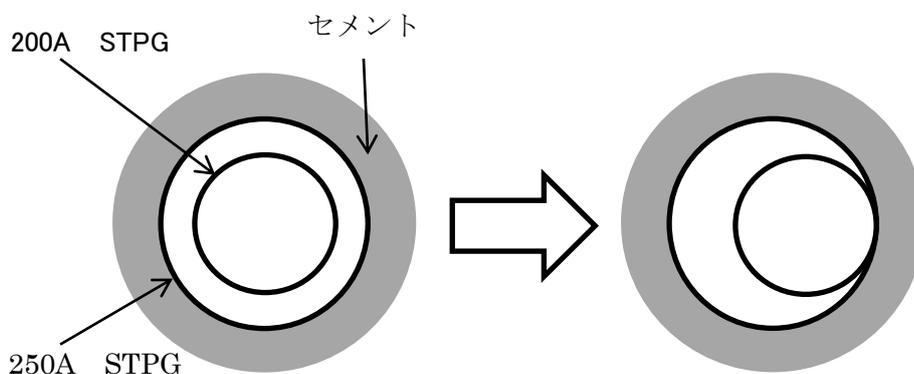


モデルケース 3 に対する対応について

資料-4 のモデルケース 3 については、地表部のケーシングを抜管するか、アニュラスにセメントを充填する必要があるとしたが、掘削事業者へのヒアリングでもこの部分が基本とするよう指示している。実際に口径の細いケーシング管を抜管する作業は容易でないうえ、櫓を設置する等大掛かりな工事が必要となる。そこで、資料-2、埋戻し方法（案）、p 12, 2-5. (1) 1 の他、p 7, 3 に例外規定を認める文章を追加した。

さらに具体的な対応策を示す場合、以下のような対応が考えられる
下図のように、セメントで固定されていない内側の 200A STPG 管を片側に寄せたうえで生じた隙間に 20~25A のパイプを送入しセメントスラリーをポンプで圧入する。



モデルケース 3 井戸を上から見た図